

2016 年度事業計画書

第 20 回理事会(2016 年 7 月の書面決議)にて
承認された、公益目的事業統合後の事業計画書

公益財団法人国際文化フォーラム(TJF)

2016 年度事業計画一覧

ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業

- (1) 中国中等日本語教師研修の実施
- (2) 外国語学習のめやす活用推進をめざしたワークショップの開催
- (3) 21 世紀型能力の育成をめざした教師研修
- (4) CM づくりワークショップの実施
- (5) 高校生、教師、保護者を対象とした中国語および韓国語講座の実施
- (6) アの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動の実施

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発・提供事業

- (1) 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにつぼん」の運営
- (2) 『外国語学習のめやす』活用のための「めやす Web」の運営

ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業

- (1) 日韓の中高校生交流プログラムの実施
- (2) 日韓の校長交流プログラムの実施
- (3) 日露の教師・生徒交流プログラムの実施
- (3) ウの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動の実施

エ. 広報事業

- (1) 事業報告書『CoReCa』の作成
- (2) デジタル媒体を使った広報
- (3) 30 周年記念事業の準備活動

公1

国内外の教育関係者が連携し、国内外の児童及び青少年がお互いのことばと文化を学び交流する場をつくることを通じて、相互理解と人間形成を図り、多言語、多文化が共生するこれからの社会づくりに貢献することをめざし、以下の事業を実施します。

ア．国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業

- (1) 中国中等日本語教師研修の実施
- (2) 「外国語学習のめやす」活用推進をめざしたワークショップの開催
- (3) 21世紀型能力の育成をめざした教師研修
- (4) CMづくりワークショップの実施
- (5) 高校生、教師、保護者を対象とした中国語および韓国語講座の実施
- (6) アの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動

各事業の計画概要

(1) 中国中等日本語教師研修の実施

TJFは、中国の初等中等教育における第二外国語としての日本語教育の促進をめざして、2005年から大連教育学院と合同でさまざまな事業を実施してきました。その一つが第二外国語としての日本語教育のための教材『好朋友』（全5巻）の開発です。当初は試行版として、大連市での使用に限られていましたが、2013年に第1-2巻を市販化したことにより、現在では大連市を含む15の省・市で『好朋友』を使った日本語の授業が行われるようになりました。2016年度は残る第3-5巻を市販化し、本教材の活用を促進します。

ただ、第二外国語としての日本語の授業時間数が限られている中で、『好朋友』を使った授業を実践してもらうためには、各巻独立しての使用手法や、教師が定めた目標に沿って、教科書の内容を使いやすい形に変更する「教科書のアダプテーション（適応）」が必要です。2016年度は、中国の中等教育段階で日本語教育に携わっている教師を対象に教科書アダプテーションをテーマとする研修を実施します。

主催：（公財）国際文化フォーラム

共催：上海工商外国語学校

助成：公益財団法人三菱UFJ国際財団

協力：中国中等日本語課程設置校工作研究会、中国教育学会外国語専門委員会日本語部

時期：2016年12月上旬

場所：上海市

参加者：中国中等日本語教師および日本語指導主事 45名を予定

講師：日本語教育専門家

内容：「教科書のアダプテーション（適応）」についての講義と実践

(2) 「外国語学習のめやす」活用推進をめざしたワークショップの開催

TJFは2012年、中国語・韓国語教育の関係者が中心となり『外国語学習のめやす—高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（以下、「めやす」）が刊行しました。どの外国語教育にも応用できる内容でしたが、中国語と韓国語以外の外国語教育関係者に「めやす」を理解してくれる人をつくろうと考え、「学習のめやすマスター研修」（年2回、合宿型）を2013年度から始めました。2015年度まで3回の研修を修了した「マスター」は、8言語（英・韓・西・中・独・日・仏・露）計55名に上りました。2016年度は、マスター研修修了者と共催もしくはTJFが協力するかたちで「外国語学習のめやす」の活用推進をめざしたワークショップを実施します。

時期：2016年8月、9月、10月、11月（予定）

場所：東京、仙台、大阪（予定）

参加者：高校、大学等で外国語教育に携わる教師

テーマ：外国語学習のめやす」の活用の可能性

(3) 21世紀型能力の育成をめざした教師研修

TJFは、児童・生徒が、社会構造が大きく変動していくこれからの時代を生きていくために必要な力を身につけられる教育を受けられるようになることをめざしています。その目標を達成するための一つの方法として、2013年度より、21世紀型能力の育成をめざした教師、生徒および教育関係者を対象とする研修、ワークショップや講演会を共催もしくは実施に協力してきました。

2016年度は、以下の研修、講演、ワークショップ等の実施を予定しています（内は日付と実施場所）。いずれもカリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授が講師を務めます。

- 沖縄県教育委員会主催（2016年6月6日／県立総合教育センター）、
- 沖縄県立向陽高校2,3年生向け講演（2016年6月7日／向陽高校）
- 普天間高校全校生徒向け講演（2016年6月8日／宜野湾市民会館）
- 豊中市教育委員会主催教員研修（2016年7月29日／豊中市教育センター）
- TJF主催レクチャー&ワークショップ（2016年7月31日／大阪大学中ノ島センター）
- 大阪府教育センター主催校長・教師研修（2016年8月1日／大阪府教育センター）
- 北海道高等学校英語教育研究会主催「高英研セミナー」第10回記念講演（2016年8月5日／北海道札幌国際情報高校）
- 滝川市西高校講演（2016年11月25日／滝川西高校）
- 滝川市講演（2016年11月25日／滝川市の公共施設）

○TJF 主催レクチャー&ワークショップ(2016年11月26日/北海道札幌旭丘高校)

(4) CMづくりワークショップの実施

TJFは、国際交流や外国語の授業などで、「伝えるために何かをつくる」発信型の活動を試みてきました。しかし、発表にいたるまでのプロセスが深められないまま、「なんとなくつくって、なんとなく発表」するだけに終わってしまうことも少なくありませんでした。外国語の授業で学んだ語彙・表現を使い、スキットやプレゼンテーションをつくって発表したり、探究学習などで調べたことを映像などにまとめてウェブサイトに掲載するといった発信型の活動は、さまざまな教室で行なわれていますが、同じような課題を抱えているケースもあるようです。こうした課題を踏まえ、「ターゲットは誰なのか、何を伝えたいと考えているのか、ターゲットに伝わるためにはどう表現したらいいのか」を深く掘りさげるプロセスを、発信型の活動にしっかり位置づけたいと思い、CMづくりワークショップを始めました。

2016年度もこれまで同様、プロのCMデザイナーを講師とした、CMづくりワークショップを引き続き、学校の授業と関連づける形で実施します。

(5) 高校生、教師、保護者を対象とした中国語および韓国語講座の実施

TJFは、学校で英語以外の外国語を学ぶ機会がない中高校生に学ぶ機会を提供したいと考え、「隣語講座」として学校外で中国語と韓国語を開催してきました。2015年度からは保護者にもさまざまな言語と文化に触れてもらうことで、隣語を学ぶ機会づくりが促進されると考え、保護者を対象とした講座もスタートしました。2016年度は、以下で講座を開催することを予定しています。

○「中高生のための韓国語講座 2016」(駐日韓国文化院世宗学堂と共催、通年)

○「世界の言語と文化を知ろう」(東京都高等学校総合学科教育研究会と共催、6月)

○ 高校生のための中国語・韓国語講座(時期未定)

(6) アの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動

TJFが研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウムを実施するために、各分野の専門家とのネットワーク構築、関連情報の収集をめざして、国内外で行われる学会や研究会に出席するなどの活動を行います。

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発・提供事業

(1) 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにつぽん」の運営

(2) 『外国語学習のめやす』活用のための「めやすWeb」の運営

各事業の計画概要

(1) 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにつぼん」の運営

日本情報発信サイト「くりっくにつぼん」には、日、英、中、韓の4言語語で、日本で話題のテーマに関わる人たちの考えや生き方、中高校生の日常生活に関する記事とその記事を使った日本語の授業案を掲載し、国内外の青少年や日本語教育に関わる人たちに向けて発信しています。2016年度は引き続きコンテンツ作成に取り組むとともに、より多くの日本・日本語ファンにくりっくにつぼんのサイトにアクセスしてもらうため、ポスターの制作や教師向けにくりっくにつぼんを紹介する場を設けるなど広報にも力を注ぎます。

(2) 『外国語学習のめやす』活用のための「めやすWeb」の運営

TJFが開発した新たな外国語教育のガイドライン『外国語学習のめやす』の活用を目的に、2012年度に「めやすWeb」を開設し、授業案や授業づくりに役立つリソースを提供しています。2016年度も引き続き、「めやす」の考えに基づいて作られた授業プランを掲載し、「めやす」が国内外の外国語教育現場で活用されることを促進します。

ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業

- (1) 日韓の中高校生交流プログラムの実施
- (2) 日韓の校長交流プログラムの実施
- (3) 日露の教師・生徒交流プログラムの実施
- (4) ウの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動

各事業の計画概要

(1) 日韓の中高校生交流プログラムの実施

TJFは、日韓の中学生・高校生の間で関心の高く、部活動や課外活動としても親しまれているK-POPダンスをテーマに、韓国語を学ぶ日本の中学生・高校生と日本語を学ぶ韓国の中学生・高校生が、ことばの学びと協同活動を通じて、学習している言語の運用能力を高めるとともに、相互に理解を深め、仲間とともにものを創りだす力を身につけることをめざした交流事業を、韓国の財団法人秀林文化財団と共催で、2012年度から毎年実施しています。

5回目となる2016年度は以下のとおり実施します。

企画主催：(公財)国際文化フォーラム、(財)秀林文化財団

実施：(公財)国際文化フォーラム、秀林外語専門学校、韓国日本語教育研究会

助成：(公財)双日国際交流財団、国際交流基金ソウル日本文化センター

輸送協力：ANA

時期：2016年8月3日（水）～8月8日（月）

場所：韓国ソウル特別市 ※8月3日は秀林外語専門学校で事前研修

参加者：日本で韓国語を学んでいる中高校生18名、韓国で日本語を学んでいる中高校生18名、引率5名、事務局2名

参加費用：40,000円（日本側参加者のみ）

(2) 日韓の校長交流プログラムの実施

TJFは、日本にとって大切な隣人・隣国のことばである、韓国語や中国語教育の裾野を広げるためには、より多くの学校の責任者の理解とサポートが必要だと考えています。こうした考えから、2008年度より互いのことばの教育に取り組む日中の校長交流プログラムを、2015年度より日韓の校長交流プログラムを開始しました。

2016年度は、日韓校長交流プログラムの第2回目を、東京韓国教育院、神奈川韓国総合教育院の共催事業として実施します。韓国滞在中は、韓国の社会や文化を体験し、韓国理解を深めるとともに、韓国で日本語教育に取り組む学校の責任者や教師との交流、日本語学習者との懇親などに取り組み、最終的には、学校間交流を含めた日韓におけるお互いの言語教育の発展につながることをめざします。

主催：（公財）国際文化フォーラム（TJF）、東京韓国教育院、神奈川韓国総合教育院

※8月8日（月）の日韓校長交流会は国際交流基金ソウル日本文化センターも共催

輸送協力：ANA

時期：2016年8月6日（土）～9日（火）（3泊4日）

場所：韓国ソウル特別市

参加者：

<日本側>※8月6日（土）～9日（火）の全日程

東京、神奈川、千葉、埼玉、広島の韓国語教育および韓国理解教育や韓国との交流に関心をもつ学校の責任者10名、事務局2名

<韓国側>※8月8日（月）の日韓校長交流会

韓国各地で日本語教育に取り組む高等学校の責任者（理事長、校長、教頭）および教師 計20名程度

参加費用：5万円（日本側のみ）

(3) 日露の教師・生徒交流プログラムの実施

日本でロシア語教育を実施している高校は30校。高校ロシア語教育をサポートしたいという思いをもった大学の先生との出会いから、2015年度にTJFの高校ロシア語教育事業がスタートしました。日露で互いの言語を教える教師、学ぶ生徒をつなげたいと考え、第一弾として、2015年8月、ロシアの日本語教育の拠点であるモスクワとノボシ

ビルスクから6名の日本語教師を招聘し、滞日中に日露合同教師研修を開催しました。

日本のロシア語教育とロシアの日本語教育間の交流を進めることによって、互いの言語教育に携わる教師や学習者の意欲向上と相互理解の深化につながると考え、2016年度は日本の高校でロシア語を学んでいる高校生、ロシア語を教えている教員をノボビルスクとモスクワに派遣し、現地で日本語を教えている教員、日本語を学んでいる高校生と直接交流することを通して、日本文化及び日本語の面白さを伝え、併せてロシア語とロシア文化を日本の高校生に学んでもらうという内容のプログラムを実施します。

主催：(公財)国際文化フォーラム(TJF)

助成：(一社)尚友倶楽部

企画協力：日本航空(JAL)、株式会社ジャルパック(JALPAK)

実施日程：2016年9月15日(木)～9月24日(土)(9/15事前研修)

訪問都市：ノボシビルスク、モスクワ

派遣対象：ロシア語実施校7校からロシア語担当教員7名とロシア語履修生徒12名の計19名 ※現地で日本語教師、日本語学習者が参加

参加費用：5万円(日本側のみ)

(4) ウの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動の実施

TJFが企画・実施する交流事業の中身を深めるために、異文化間教育学会・日本国際理解教育学会・REX-NETなどが実施する各研究会・研修などに参加し、情報収集を行うとともに、主体的・能動的な学びを実践している学校関係者や専門家とも情報交換・ネットワーキングを行います。

エ. 広報事業

- (1) 事業報告書『CoReCa』の作成
- (2) デジタル媒体を使った広報
- (3) 30周年記念事業の準備活動

各事業の計画概要

(1) 事業報告書『CoReCa』の作成

2015年度より事業報告書のデザインを一新し、「見てわかる」事業報告書をめざしました。2016年度も引き続きこのコンセプトに基づき、事業報告書『CoReCa』を発行します。

(2) デジタル媒体を使った広報

TJFは、2012年6月に財団のfacebookページを開設、2014年7月から月2回メールマガジン「わやわや」の配信し、日々の事業の取り組みについて伝えています。2016年度も

引き続きソーシャルメディアを組み合わせた発信を行っていきます。

(3) 30周年記念事業の準備活動

TJFは2017年に設立30周年を迎えます。2016年度は、記念誌の制作など、節目の年に相応しい事業の実施のために準備を進めていきます。